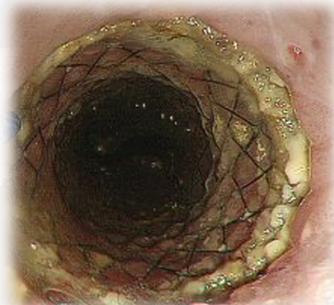


早期の食道がんには症状を自覚することは少ないですが、がんが進行してくると、水分や食事が通りにくくなり、通過障害が生じ、経口摂取が困難となります。また、がんが気管や神経に浸潤すると、咳が出たり、声がかすれるという症状を認めます。さらに、胸部や背部に痛みを伴うこともあり、これらの身体症状により、QOLの低下をきたすことがあります。食道がんによる痛みは、胸部や腹部だけでなく、リンパ節転移や骨転移などの場所により、全身に及ぶ場合があります。これらの痛みに対して適切な評価を行なった上で、必要かつ十分な鎮痛剤を投与します。骨転移の痛みを和らげるために緩和的放射線治療を行うこともあります。

## ① 食道ステント治療

手術不能の進行食道がんにより、食道が狭窄しているところにステントを挿入し、広げることにより、口から水や食事を摂取できるようにすることを目指します。ただし、出血、挿入後の疼痛や、食道穿孔（食道に穴があくこと）など生命の危険を及ぼすこともあり、十分な注意が必要です。また、食道穿孔のリスクがあがるため、放射線治療を施行する前後に施行することは困難とされています。



## ② パイパス手術

手術不能の進行食道がんで、食道が詰まった場合に、口から水分や食事を摂取できることを目的とした手術です。がんのある食道を残して、胃や腸を使って、新しい食べ物の通り道を別に作ります。

## ③ その他

栄養状態の改善のため、狭窄した食道を食べ物を通らない形として、胃や腸に穴をあけ、腹壁から栄養剤を投与する胃瘻や腸瘻の造設をすることがあります。